

## 長野県ササ類地図 (10)

### 入笠山周辺のササ類相

三樹 和博 \*

#### はじめに

入笠山（標高 1955 m）は長野県中部に位置し、南アルプス北端に連なる山地である。北東側にはフォッサマグナ地域に含まれる八ヶ岳の山群が聳えているが、八ヶ岳との間には、フォッサマグナ地域の西側境界である糸魚川－静岡構造線が通過している。そのため入笠山を構成する地質は、八ヶ岳側とは異なり中生代の古い地層から成っている。

山頂下一帯は、比較的なだらかではあるが、起伏のある地形も内包しており、高標高域では冬季かなりの積雪があり、湿原も存在する。標高 1780 m までロープウェイが通じており、一年を通してレジャー目的での多様な利用がされているため、人為的に管理されたエリアも一定以上存在するが、湿原周辺は、山地性植物の宝庫として知られ、ホンシュウジカによる採食から守るための植生保護柵が設置され保護活動も進んでいる。

現在の入笠山は、山麓部から高標高域にかけて、植林によるカラマツ林がかなりの面積を占めるに至っている。周辺地域は、西日本－太平洋要素の植物が卓越する地域であり、釜無川沿いの富士見町では、太平洋側から侵入したとみられる暖地性植物も確認されている（清水 1997）。ササ類においても過去の調査により（三樹 2015）、暖温帯域を中心に分布域を形成するアズマネザサ *Pleioblastus chino* Makino を、山梨県境付近で確認している。アズマネザサの富士見町内での分布量は少ないと思われるが、他にも採集記録が残されている（清水 1979, 1997）。また山梨県甲府盆地では、東日本分布種のアズマネザサと、釜無川（富士川）沿いに分布を広げたと思われる西日本分布種であるネザサ *Pleioblastus chino* Makino var. *viridis* Sad. Suzuki の混生地帯となっている（三樹 2022）。

過去には、本調査地域に近い八ヶ岳周辺部でも同様の調査を行っており（三樹 2015, 2019）、その成果としてササ属 *Sasa* において、低標高域から高標高域までの間で、ササ属各節（ミヤコザサ節 Sect. *Clssinodi*、アマギザサ節 Sect. *Monilicladae*、チマキ

ザサ節 Sect. *Sasa*）の種が、標高に応じた棲み分けや、その分布境界付近では交雑個体も確認している。なお本調査により得られた結果をもとに、立地条件は異なるが八ヶ岳地域との比較も目的とした。

#### 調査地域と方法

本調査は、茅野市南東端から富士見町を通過する国道 20 号線や、JR 中央本線の南側に沿った集落周辺（標高 900 m 前後）から、入笠山山頂周辺までを調査範囲とした（図 1）。調査は 2023 年 9 月 11 日に行い、上記の調査区内の車道や登山道周辺に自生するササ類種を記録した。同定は小林（2017）に準拠し、採集標本は長野県環境保全研究所（NAC）へ収めた。

#### 結果と考察

まず、集落上部に広がる山麓部であるが、落葉樹林の林縁やカラマツ林の林床において、ミヤコザサ節のニッコウザサ *Sasa nana* Makino や、ビッチュウミヤコザサ *Sasa samaniana* var. *yoshinoi* Sad. Suzuki などの種がかなりの面積を埋めている（図 1-①）。特にカラマツ林内では、ミヤコザサ節のササ類が高い密度で林床に優占している。後で述べ

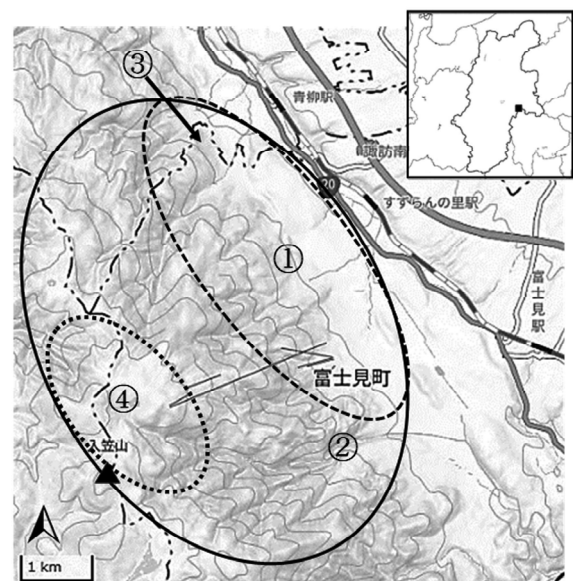


図 1 調査地域図 ○：調査範囲

\* 三樹 和博 神奈川県相模原市 takachan@vega.ocn.ne.jp

る山頂下のエリアでも、カラマツ林は、高い頻度でアマギザサ節のササ類の林床となっており（図2）、このような傾向は、長野県内の他地域においてもしばしば確認され、カラマツの植林地は上記2節のササ類に対して、光環境や土壌的要因などの上で好適な環境を提供している可能性がある。

長野県内の浅間山や蓼科山では、火山灰地や火山砂礫地などにカラマツの自生が見られ、その林床にもミヤコザサ節の種が優占する傾向があり、カラマツーミヤコザサ群落として記録されている（宮脇1979）。それによると、カラマツは落葉性の針葉樹であるために林床は明るく、ミヤコザサ節などのササ類が林床を覆ってしまい他種の混生状態へと遷移しにくいとされている。このような環境がカラマツ植林地でも反映されるとすれば、林床の光環境は、カラマツ植林地内においても、ミヤコザサ節などのササ類が高い密度の群落を形成する可能性は高い。また密度の高いササ類群落であればあるほど、天然林と同様に他種の侵入を阻害する要因となるかもしれない。

この低標高エリアでは、林床、林縁に広がるミヤコザサ節の種のほかに、武智川沿いの斜面地においてスズダケ *Sasamorphia borealis* Makinoi et Shibata の分布を、そしてスズダケ群落に隣接してミカワザサ *Neosasamorphia pubiculmis* subsp. *Sugimotoi* Sad. Suzuki（図3）の分布も確認した（図1-②）。ミカワザサ群落は溪流の急な斜面に位置しており、崩落個所以外では安定した密度での生育が見られる。しかし、スズダケ群落では、シカが容易に接触できるため枝葉が喫食され、群落全体での退行が認められた。このスズダケの分布自体が限定的なのは、集落周辺の二次林において人為的な攪乱が継続されてきた影響により、それに耐性を有するミヤコザサ節の分布が広がり、逆に林地の伐開等により裸地化したタイミングで、林床性のスズダケが後退していったことも推測される。

また、集落上部の植林地周辺の一か所で、アマギザサ節のミヤマクマザサ *Sasa hayatae* Makino が、林縁に沿った小規模な群落を展開していた（図1-③）。このミヤマクマザサは入笠山の山頂一帯に広く分布しており、標高の低い山麓部ではこの狭い範囲のみでの確認であった。フォッサマグナ地域の太平洋側周辺に多く分布するミヤマクマザサなどのアマギザサ節の種は、山地上部に分布域を形成する傾向が見られるものの、山地内の沢の下流部や山麓部に隔離的な小規模群落を見ることもある。これらは、



図2 カラマツ林床のミヤマクマザサ



図3 ミカワザサ

低地における遺存的な分布とするよりも、山地自体の大規模な崩落や土石流による植物体（特に地下茎）の移動の痕跡である可能性が高い。

一方、入笠山山腹に成立しているカラマツ植林地以外の落葉広葉樹を中心とした森林周辺では、林縁などにササ類群落が点在する程度だが、山頂下までのカラマツ林では、林床の広い範囲をミヤマクマザサの密度の高い群落が覆っている（図1-④）。

上記のように、長野県中東部に位置する入笠山周辺では、低標高域においてミヤコザサ節数種が林床、

林縁での安定した群落を形成しており、スズダケ属、スズザサ属に限られた範囲で生育していることを確認した。そして、高標高域のカラマツ植林では、アマギザサ節のミヤマクマザサが林床を埋めており、この地域は、主に太平洋側に分布域を持つ種によるササ類相が形成されていると考えられる。

本調査区のササ類相は、八ヶ岳周辺のササ類相とも類似しており、標高ごとの棲み分けも同様の傾向を確認している。しかし、八ヶ岳ではアマギザサ節の種が生育するさらに高い標高 1700 m 前後からチマキザサ節のクマイザサ *Sasa senanensis* Rehder emend. M.kobay. が現れる（三樹 2019）。本調査ではチマキザサ節の種の分布は未確認であり、入笠山の標高 1700 m から上では、山頂下のカラマツ林中にミヤマクマザサが優占しているのみであった。入笠山の標高 1955 m の山頂では、この山の山地特性（風衝性が高さなど）や登山などによる頻繁な利用も影響するためか植生は乏しく、八ヶ岳に比して標高も低いことから、チマキザサ節の生育に適した環境（特に安定した積雪深）が成立しにくいのかかもしれない。

#### 謝辞

長野県環境保全研究所の尾関雅章氏には、標本受け入れに際し格段のご配慮を賜りました。ここに謝意を表します。

#### 証拠標本

ミヤマクマザサ：長野県茅野市金沢 . Sep. 11, 2023. K.Miki. NAC201945, 長野県諏訪郡富士見町入笠山 . Sep. 11, 202. K.Miki. NAC201951.  
 ビッチュウミヤコザサ：長野県諏訪郡富士見町入笠湖 . Sep. 11, 2023. K.Miki. NAC201946.  
 ニッコウザサ：長野県諏訪郡富士見町若宮 . Sep. 11, 2023. K.Miki. NAC201947.  
 ミカワザサ：長野県諏訪郡富士見町若宮 . Sep. 11, 2023. K.Miki. NAC201948,201949.  
 スズダケ：長野県諏訪郡富士見町若宮 . Sep. 11, 2023. K.Miki. NAC201950.

#### 引用文献

- 小林幹夫（2017）日本のタケ亜科植物．北隆館．東京．  
 三樹和博（2015）長野県ササ類地図（1）八ヶ岳をめぐる二つの交雑帯．長野県植物研究会誌 48: 5-8.  
 三樹和博（2019）長野県ササ類地図（5）八ヶ岳周辺のササ類相（追補）．長野県植物研究会誌 52: 9-11.  
 三樹和博（2022）メダケ属ネザサ節植物の東西日本における分枝形態の分化．植物地理・分類研究 70(2): 127-134.  
 宮脇昭編（1979）長野県の現存植生．長野県．長野．  
 清水建美監修（1979）富士見町の植物．富士見町教育委員会．富士見町．  
 清水建美監修（1997）長野県植物誌．信濃毎日新聞社．長野．

